

新・鷗外記念館 日独の絆

明治の文豪、森鷗外の留学先だったドイツ・ベルリンにある記念館がリニューアルオープンした。北九州市の鷗外記念会など、日本の団体や有志からの寄付も使って常設の展示を一新した。記念会にはお礼の報告が届いた。

「新規常設展は、その道中に幾度も困難に見舞われましたが、ようやく皆様のお目にご覧入れられる時を迎えることができました。温かな協力とご支援に最上級のありがとうを言わせてください」

3月末、北九州森鷗外記念会にこんなメールが届いた。ベルリン森鷗外記念館のベアーテ・

ボンデ副館長(63)が、同月23日に記念の式典を執り行ったことを伝え、日本からの寄付に感謝する内容だった。

記念館は昨秋にいったん休館し、常設展のリニューアルに向けた準備に入った。しかし、改修費用として想定した5万円のうち1万円(約120万円)が不足。ボンデさんが北九州の記



リニューアルされたベルリン森鷗外記念館の常設展示＝同記念館提供

ベルリンの常設展 北九州などの寄付で一新

記念会など日本の鷗外関係の団体や企業に支援を依頼したところ、個人を含めた寄付が日本各地から寄せられ、必要額に達した。

寄付をした団体は、北九州と東京の記念会、北九州日独協会のほか、鹿児島医師らでつくる「協力募金会」などで、計約3千円を集めたという。

新規常設展は「森鷗外——異文化との出会い」。従来はドイツ語が中心だったパネルの説明に日本語が加えられた。鷗外のベルリン時代や日本帰国後のさまざまな分野での活躍などを紹介し、鷗外の多面性や二国間の交流とその影響を浮かび上げさせる内容にした。

展示に和紙を模した紙を使うなど、視覚的な工夫も凝らした。鷗外がフランス語で書いた手紙や、ベルリン時代の未公開写真なども新資料として展示された。ボンデさんは「来館者の滞在時間が3倍になった。みなさんの関心をひくものになったと自負している」と話した。

北九州鷗外記念会の浜田源一郎会長は、ドイツの記念館を2度訪れたことがあるという。「立派なリニューアルになったようですね。新しい展示を見るため、いつか訪問したい」と語った。

(奥村智司)